

特254

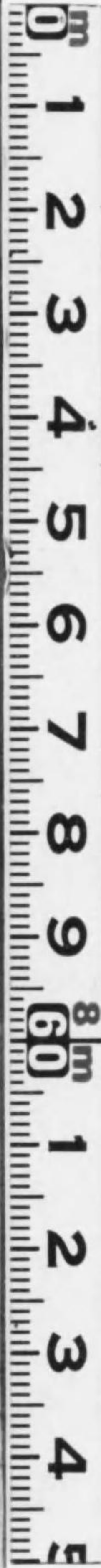
285

和十四年十二月發行

青年漢物百選

第四輯

成田圖書館



始



特 254  
285

青年漢物百選

第四輯

## はしがき

- 一、本百選は、本館に於て本年度讀書普及運動に際し、一般青年層の讀書獎勵を目的として編纂したものである。
- 一、本書に収録せる書物は、本館蔵書中最近の發行に係はるものの中から、青年讀物として適切なものを選定し、之に解説を施したものである。
- 一、書物の排列は、本館分類表綱目に據つてゐるが、書物は必ずしも該綱目に示す全部の種類のものを含まない。
- 一、書中、書名、編著名の左方に掲げたものは、發行年月、發行所、定價、版型、分類記號、分類記號の下・印以下の數字は、圖書番號を示してゐる。

昭和十四年十二月

成田圖書館

分	類	數冊	頁	分	類	數冊	頁
〇類	一般並郷土資料	一	一	五類	政治・法律・經濟・軍事	一〇	四八
一類	宗教・哲學・教育	三〇	三	六類	社會・風俗・家庭	六	五六
二類	文學・語學	一四	二五	七類	娛樂・運動	一	六一
三類	藝術・演藝	二	三四	八類	理學・數字・醫學	二	六二
四類	歷史・傳記・地理・紀行	一六	三六	九類	工業・交通・通信	七	六四
					産業		

収録冊數八十九冊

# 青年讀物百選

成田圖書館編

## 〇類 總類 一般並郷土資料

### 學生と讀書

河合榮治郎

昭和一四、二  
日本評論社

二・〇〇 洋四六

〇一九〇・八

本書は「學生叢書」の一篇として上梓されたものであるが、讀書は獨り學生生活者のみの獨占ではない。有ゆる人々の生きる限り繼續さるべき仕事であつて、生涯を通じて必要なことである。書中第一部は「讀書の考察」と題し、各權威者に依つて讀書に關する問題を各方面から論究されたもの。第二部は「讀書の回顧」と題し、各方面に活躍する人々の所説を掲げられてゐるが、是れに

依つて是等の人々が如何なる讀書に依つて今日に立ち至つたか、その讀書の方法や必讀書物を知る、  
 ことが出来る。第三部は「讀書の資料」と題し、讀書の常に座右に備へ置くべき書物を記され、附  
 録として學生の讀書傾向、最後に執筆者の略歴を掲げられてゐる。

### 一類 宗教・哲學・教育

#### 日本國家思想

肥後 和男

昭和一四・二  
 弘文堂書房

〇、五〇

洋四六

一四〇九・三一

本書は國家的時局に臨み、眞實愛國の大義に徹し、眞に國民的使命に目指さんとする人々の爲に  
 教養文庫として刊行されたものの一である。吾々は國家に生れ國家に死ぬ、暫くもそれから離るる  
 ことは出来ない。是れは巨大な運命であると共に、喜ばしい生命である。今や我國はその内に漲る  
 逞しき生命を提げて、世界に向つて堂々たる進軍を開始し、開闢以來未曾有の大飛躍をなしつつあ  
 ることは勿論、世界にも比類を見ざる其の雄圖は、正に世紀の壯觀である。著者はこの光輝あるわ  
 が國家の發生起源より、國家思想の時代的展開につき、歴史の立場より其の過程を叙述されてゐる  
 が、其の内容は國家の生成、國家思想の出現、統一國家の成立と其の思想、佛教と國家思想、封建  
 的國家の再現と國家思想、中世の神國論、近世の國家思想、明治以後の國家思想等に分れてゐる。

# 青少年學徒

ニ賜ハ  
リタル

## 勅語解

三浦 藤作

四

昭和一四・八  
東洋圖書株式合資會社

一、五〇

洋 菊

一七二〇・六

昭和十四年五月廿二日宮城廣場に於て、全國學校教職員及び學生生徒三萬一千有餘名が、御親閱を仰ぎ、無上の光榮と感激に咽んだことは勿論、此の日 長くも青少年學徒に對して 優渥なる勅語を下賜せられたことは周知の事柄である。本書は此の前例なきありがたき勅語に就いて詳細なる謹解を下し、而して是れに對する深い感銘と、その奉體の心得や、明治以後の詔勅御製に拜し奉る青少年學徒への御軫念等に就いて記され、尙ほ附録として御親閱に關する事項其の他を掲記されてゐる。

# 心學精粹

石川 謙

昭和一四、三  
教 學 局

洋 菊

一七三〇・三四

石田梅巖(勘平)を教祖とする石門心學は、道統今に傳へて二百十餘年、普及五畿七道に跨つて六十有餘國、古今に類ひ稀なる偉觀を呈した所の我國固有の教化運動である。本書は此の梅巖の教化精神を検討し、一般をして日本精神の心解と、體得に資せしめる目的を以て、其の内容を梅巖の事蹟と其思想、梅巖思想の構成要素、梅巖思想の構成原理、社會教化の方法と内容の四項に分ちて細説し、以て梅巖と其の心學の如何なるものであるかに就いて説明されてゐる。

# 日本の知性と技術

三枝 博音

昭和一四、五  
第 一 書 房

一、四三

洋 四 六

一七三五・一

人間生活のある處には必ず技術がある。技術のある處には必ず知性が働いてゐる。技術は知力發達の母胎である。知性と技術を考へることによつて、始めて現代に於ける人間生活が理解されるし、又日本の文化も之に依つて理解されてくる。本書は如上の意味によつて日本文化を理解せしめるため、此の方面の事項を記述されたもので、即ち前篇には、日本の知性として知性の日本的進み方、日本に於ける哲學的知性の歴史、日本に於ける宗教思想の歴史を掲げられ、後篇には、日本

五

の技術の歴史として、日本の技術史、技術の諸問題を記され、最後に附録として、支那技術史管見を述べられてゐる。

### 若い人の爲に

名取 夏司

昭和二三、一一  
實業之日本社

一、三〇

洋四六

一七四〇・五四

本書は著者が青年に對して、著者自身の體驗と信念とに立脚して人生の進路を示されたもので、出世の目標と精進、青年男女に語る、活きた心遣ひ、世渡り指南の四篇に大別、各方面の修養事項を力説されてゐるが、最後の世渡り指南は、實業之日本讀者のために、その學業、職業、立身出世其他他身上に關する質問に對しての紙上解答である。著者は早大卒業後財界生活三十年、實務の傍ら讀書に精勵修養怠りなく、實業家たる以外に更に一個の人生哲學者であり、新聞雜誌等に独自の人生觀社會觀を發表し、殊に青年に對しては大なる關心を持ち、よき忠告者相談相手として努力されつゝあるので、本書の如きは蓋し有力なる青年修養書と見ることが出來やう。

### 感激集

### 母戀し

小瀧みさを

昭和二三、一二  
文友堂書店

一、三〇

洋四六

一七四四・一三

「私等の生涯は母への思慕が築き上げるのだといひます。流れる河の水が、その源を持つてゐるやうに、母を有つために私等の生存があるのだと思ふことは、得もいはれぬ力強さと心安さでありませす。云々」と、著者が序文されてゐるが、母といふものゝ有りがたさを思ひ、母を戀ひ慕はぬものは一人もあるまい。本は著者がその母を讃へた物語りであつて、行文は多少潤色され、稍々小説的となつて現はれてゐるが、全十章の物語そのものは、悉く著者が母より受けた事實を骨子として、感激的に描かれたものであつて、他に感銘を與へる所が蓋し尠くないことであらう。

### 日本精神と新興報徳

遠山信一郎

昭和一四・二  
二宮尊徳翁全集刊行會

二、二〇

洋四六

一七五〇・五

本書は 天皇至尊の本源を明にし、日本精神を再検討し、報徳道を現代化せる新興報徳と其の運動の發生經過を記録せるもので、本書の特徴は所謂報徳型に墮せず、廣き視野に大乘的見地に立ち独自の卓説も多く、實に著者十年に亘る報徳道運動の體驗記録であつて、日本精神の宣揚と報徳道新興報徳運動、新興報徳運動の地方概説の三篇に分ちて詳述されてゐる。著者は報徳道鼓吹者として著名な人であることは周知のことであるが、行政官として始めて報徳道を適用したのは、静岡縣在官中であり、其の後各所に特別指導村を造りて講座を開き、又は報徳道を以て縣の指導精神となし、以て道徳と經濟一圓の治績を擧げられ、退官後も各所の有力者を動かして、新興報徳運動の普及を圖り、今や全國に三百數十の結社を見るに至らしめた人である。

中 根 環 堂

## 國體本位の宗教教育

昭和二三、一二  
如 是 社

一、五〇

洋 四 六

一九五二・七

本書はわが國體成立の精神より、將又國民精神の特質より考察して、教育勅語の御精神に添へ奉る宗教々育の必要を論ぜられたものである。即ちまづ第一に日本精神に立脚して行の教育國家本位の

の教育を論じ、次にわが國民程本質的に宗教的意義を具備してゐる民族は、他になきことを述べ、更に教育勅語の中に宗教的意義を拜察し奉り、惟神の大道を具備せる人格者に非ざれば、眞の教育を実現し得ざる所以を談じて、宗教々育の本源に一考を興へ、その理想具現の結論として、國體本位の教育の實踐及び方法を叙されてゐる。

## 子供を見る眼

青 木 誠 四 郎

昭和三四、一  
第 一 出 版 社

一、四〇

洋 四 六

一九六〇・二三

本書は著者が子供の題について、雑誌「いとし兒」に掲載したものに、講演の原稿等を補つて取纏めたものである。その内容は子供の性質を見る、子供の學校を見る、青年を見る、の三篇に分れてゐるが、何れも著者が兒童心理學者の立場から、心理的方面を根據として書かれたもので、特に兒童の性質や、癖と其の躰け方、矯め方、其他並に學校に於ける子供に對する見方については懇切を極め、最後の青年に就いても同様青年心理の上から、こま／＼と青年期の導き方に關して説明を加へられてゐるので、子を持つ親としては是非一讀して置く必要があらう。



### 教育者としての母

兒玉 九十

昭和一四、三  
主婦の友社

一、三〇〇

洋四六

一九六〇・二四

本書は著者が昭和十二年一月より同十三年十二月まで、「主婦の友」誌上に連載した「兩親教育」の記事に補正を加へ、「教育者の母」と題してこゝに公にされたものである。書中「子供の虚栄心は如何にして矯正すべきか」以下二十一項は、何れも子供を育てる上について、兩親の心得をこま／＼と述べられたもので、親の子に對する見方の再検討とも申すべきか、誤れる親の教育を一々指摘されてゐるので、名の如く正に「兩親教育」の書物である。全篇振假名付挿繪入で、然かも實例多く誰れにも平易に分りやすく書かれてゐる。

### 若き母に贈る

伊福部 敬子

昭和一四、七  
教材社

一、四〇〇

洋四六

一九六〇・二五

母性の事柄に就いては、男性側からも女性側からも、殆ど語りつくされてゐる程其の數多く、その役割の重要なことは、今更いふ迄もないことである。本書はこの重要な立場にある母親として心得置くべき事柄、特に若き母として子供に對する理解とその準備を有せしむべく記されたものである。即ち第一編「若き父若き母に贈る」を始めとして、搖籃をゆりつゝ、抱きつゝ育てつゝ、幼年時代の問題、少年時代の問題と順を追つて讀みよく記述し、以て若き母に對して、母としての自覺や、子を育てる上に就いての細々なる事柄を示されてゐる。

### 若きドイツ

朝比奈 策太郎

昭和一四、三  
羽田書店

一、二〇〇

洋四六

一九七二・一〇

本書は日獨青少年交驛事業として、わが青少年派遣團々長たる著者以下三十名が、防共の契り堅き盟邦ドイツを訪れ、親しく彼の國の眞の姿を把握し、兩國の親善を一層強固にすべき遠大の目的の下に、昭和十三年五月二十七日渡獨の途に上りて以來半歳、兩國青少年運動史上に劃期的なる收穫を得て、同年十一月十二日歸朝された記録で、第一部には「ドイツの旅」、第二部には「ドイツ青

少年運動」を記されてゐる。「ヒットラー、ユーゲント」は眞に世界の驚異であり、新興ドイツ躍進の原動力である。青少年運動に就いては極めて光輝ある歴史と、古き傳統とを有する我が國としても、他山の石となし、彼れより幾多の長所を學ぶことが出来る。本書は同派遺團の紀行である計りでなく、新興ドイツ青少年運動を詳記されてゐるので、青少年指導者としては必讀すべき書物であらう。

### 業道と解脱

岩本月洲

昭和一四、五  
同朋舎

一、五〇

洋四六

法界には有ゆる惱みが皆救はれて行く道が既に用意されてある。これを顯示せるものが、佛の教法である。此の教法が文字となり言葉となつたものが、佛の聖典である、聖典は之を讀む者の上に内面化し、生活化する所に眞の意味を發揮し、その精神が現はれる。本書の著者は幼少の頃より聖典に親しみ、聞法に努められ、教法の精神を體得された結果、この善惡因果の理たる業道と此の因果を解脱すべき教法に就いて、平易に書かれたものである。然し本書は著者の單なる言葉に非ず

して、著者自らが聖典に親しみつゝ、其の内面に感ずる涼風火風の記録であることが現はれる。

### 新時代の眞言教學

那須政隆

昭和一四、四  
大東出版社

一、五〇

洋四六

本書は眞言教學に於ける主なる事項中、新時代に貢献さるべきものに就いて述べられたものである。即ち東亞永遠の平和確保の大乘的聖戰より、大陸への運命的スタートを切り、現實的行動の上に新時代を觀たる我が國は、更に内面的思想方面に於ても亦新時代を劃し、所謂新日本主義なる思想が高揚されて來たと序説して、日本佛の本質とその再認識並びに日本密教の確立を述べ、次いで眞言教學の原理とその内觀、眞言教學の社會的展開に就いて述べられてゐる。

### 國體の仰信と佛教

佛教哲理の再認識

稻津紀三

昭和二三、八  
大東出版社

一、五〇

洋四六

佛教の最大の使命は、皇國國體の不可思議莊嚴なる實相を開示して、人心をして我が國體の仰信に透徹せしむるにある。これは國體の本義と佛教の本質から、自ら規定づけられてゐる永遠の關係である。本書はこれ等の點について、前篇「國家と佛教」、後篇「佛教の哲理と信仰」に關して縷説されてゐる。而して前篇に於ては佛教の歸趨は國體の信仰にあることを、主として信仰的見地からそして傍ら時代史的見地から解決されたものであり、後篇に於ては釋尊の苦、集、滅、道の四諦説に從つて、人生苦、煩惱、涅槃、道心、正見(正しい思想等)に就て平易に説明されたものである。

### 釋迦傳

長井 眞琴

昭和一四、一  
三省堂

二、二〇

洋四六

釋迦降誕二千五百年の記念事業として、東京帝大佛教青年會に於ては、佛教叢書の出版を企劃し國民一般特に青年層に對して、佛教の正して思想、信仰を傳へようとしてされてゐるが、本書はその一で、斯界の權威たる著者に依つて、釋迦一代の事蹟を三十二章に分ち、平易に記述されたものである。

### 心身鍛鍊之書

山邊 習學

昭和一四、四  
東洋經濟出版部

二、〇〇

洋四六

本書は著者が靜座道最古典たる「佛教大安般守意經」により多年研究された結果、「佛典に現はれたる靜坐の研究」と題して、雜誌「靜坐」に十有二年間掲載されたものを取纏めたものである。靜座法はいふ迄もなく、眞の意味に於ける保健法で、心身を一如に宣揚せしめ、心身鍛鍊を目的とするものであり、而して此の方法は既に二千五百有餘年の昔釋迦が提唱され、其の後多くの人々によつて實習されて來た。本書はこれ等の蒐録では「佛教と靜座」といふべきもの、靜座道を佛教の古典に照らし、全十篇に亘つて其の沿革、實習、其の他の内容に就て詳述されたものである。

### 葬式法事の仕方

茂木 無文

昭和二三、一二  
代々木書院

五〇

洋四六

葬式法事といへば朝夕の勤行と等しく、寺院に於ける最も平凡なそして最も通例な、法要でお寺

の小僧方は知つてゐなければならぬ筈であるが、今の小僧方には學問に忙はしいのや、其の他色々の原因で、相當の年齢に達してもまごつくものが少くない。著者はこれ等の點を考慮し、在家の葬式、法事、告別式、念誦、回向、出家の葬式、戦死者慰靈祭の仕方等に就いて、その法式をまとめられたものである。勿論小僧方のみならず、一般人としてもこれを心得て置けば便利である。

### 大同石佛寺

木下 奎 太郎

昭和二三、一二二  
座右寶刊行會

三、八〇

洋四六

本書は支那山西省大同府雲崗石佛寺の石窟石像を探訪した記録である。雲崗石佛寺は後魏の造に係る古刹にして、丘陵一帯の洞窟の中央に石佛寺、洞前には四層の高樓其の他があり、千五百有餘年の舊觀依然として現存し、その藝術殊に佛像彫刻の藝術味は、極めて特別のもので、その形式手法はわが推古式に符合し、多量の泰西クラシック手法を加味し、西域藝術の直系、佛教美術の遺物として貴重なものとなつてゐる。本書は著者が同所を十七日間に亘り踏査した十八年前の舊稿を重版増補したもので、書中掲ぐる所の「雲崗日録」には、各窟並に石像其の他の狀況を記し、「雲崗佛龕

の名稱」には、第一區東方諸窟、第二區中央諸窟、第三區西方諸窟の二十一窟に對する名稱其の他について、關野、常盤兩博士、シャワンヌ氏の説を記し、次に「大同美術の健陀羅分子」には、西域美術、希臘印度系その他の説を掲げ、附録として「大同石佛雜話」、「北魏造像」、「雲崗石像文献鈔」を記し、尙ほ多數の寫眞、寫生畫等を挿入して、藝術的美觀の研究に便ならしめるやう努められてゐる。

### 大 日 の 光

中 井 龍 瑞

昭和二三、一二二  
古義眞言宗々務所

一、五〇

洋 小

本書は弘法大師舊製作の書より抄出、これに興教大師の撰述中の拔萃を加へ、原文の流麗と莊重とをそのままに保存すべく、古來の訓點に従つて假名交りの和文體に改めたものである。而してその主なる目的は大衆に對する宗教的精神並に情操の涵養育成に置かれ、特に密教青年會の講習を始め、各種の會合に於ける朗讀又は在家の佛前讀經用として適するやうに編されたもので、聖典篇・法語篇・道詠篇・聖典解説の四篇に分れてゐる。

### 日蓮聖人の生涯と信仰

守屋 貫 教

昭和一三、一一  
三省堂

一、二〇

洋四六

「凡そ宗教家に在りて最も尊むべきものは、その體驗である。宗教的體驗の深淵から流れ出たものが彼等の思想信仰であり、教學である。日蓮上人は法華教の行者を以て任ぜられたことは、その生涯法華經を體驗し通されたことに外ならない。而かも聖人はその法華經生活を實現し行く毎に、自己の體驗を語り、法華經生活の完成について最もよく自己の體驗を語つてゐる。云々」と著者が序文してゐられるが、蓋し本書は著者が上人の思想信仰乃至教學をその體驗から現はさんと叙述されたもので、苦行練行の二十年、開教と迫害、立正安國の宗教的運動、國難の豫言と折伏傳導、佐渡配流と内證顯發、身延の隱棲、純信の生活、一生の結末と聖者の入滅とに分れてゐる。

重増新訂

### 日蓮聖人傳十講 上下

山川 智 應

昭和二三、一一  
新潮社

一、九〇

洋四六

本縣安房國長狹郡東郷郷(村)に呱呱の産聲をあげた日蓮上人は、宗教界の一偉材であり、一代の聖者であつたことは今更云ふ迄もなく、實に我が郷土の誇りとすべきものである。本書はこの日蓮上人の誕生より入滅までに於けるその事蹟を最も詳細に叙述されたもので、斯種の權威である。著者は田中智學師に従ひて日蓮を研究すること二十餘年、大正十年聖人降誕七百年を記念して本書を出されたのであるが、更に昭和三年普及版を出し、茲にその重増新訂普及版を公にされたのである。内容は上下二巻、全十講に亘つてその事蹟を詳叙され、更に卷末には補註日蓮聖人眞蹟、遺文所在一覽、日蓮聖人年表、人名地名索引、本書事項篇考據材料、日蓮聖人傳書目を加へられてゐる。

現行

久野 芳 隆

### 佛教各宗要義

昭和一四、五  
新義眞言宗豊山派教育財團

一、五〇

洋 菊

本書は主として日本に現行する佛教各宗の教理内容の要項を記述したもので、宗立専修學林及びこれと同種類の學校に於ける各宗綱要の教科書或は各大學専門部に於ける佛教宗學の参考書に充てんが爲め編纂されたもので、第一編序論には宗學、史的概観、第二編本論には法相、華嚴律、天台

眞言、禪、臨濟、淨土、同眞宗、融通念佛、時、日蓮の諸宗について記されたものである。

### 佛教實踐讀本

安部 大悟

昭和一三、一二  
興教書院

〇、五〇 洋四六

本書は淨土眞宗の教理に依りて、人生の修養を各方面から縷述した外、更に時局方面として銃後國民の覺悟、大國民としての教養、日本精神、大和魂の發現等について記述されたものであつて、全章二十四課各課に和歌、實例、教理を入れられ、文章亦流麗にして眞に讀本のものである。

### 佛教人生讀本

藤 秀 翠

昭和一三、一一  
顯道書院

〇、五〇 洋四六

本書は昭和十三年九月中「惠心僧都の横川法語」に就て、廣島中央放送局より全國中繼放送したものの原稿を「佛教人生讀本」として公刊されたもので、惠心僧都のこと、人間のよろこび、菩提

のしるべ、本願にあふ、妄念と念佛の五章に分れてゐるが、然しこれは單なる横川法語の講話と云ふよりも、作者惠心僧都と云ふ我國佛教文化史上の一大巨星に就ての内面的生活並びにその時代と後世に亘る影響などに關しての内容であり、これを通して一面佛教を教旨とする人生の修養に就て説かれたものである。

### 佛教生活法

長井 眞 琴

昭和一四、二  
大東出版社

一、五〇 洋四六

八萬の法藏を究め盡した所で、それが我が魂に生きてゐなかつたら、その研究は他人の寶を數へ立てるに過ぎない。佛教の智者と云はれても、その日常生活に於て何か普通人と異なる所、優れた所がなかつたら、その人には佛教は生きてゐないのである。佛法をその身に活かし、その身の寶とする、それが眞に佛教を生かす所以である、著者は佛典研究四十餘年研鑽に指を染むること三十有餘年、其の間に信じ得、味ひ得、體得し得て自己の所有となし、寶となし、これを生活化したことについて平易に論述されたのであつて、信仰生活、反省生活、修行生活、經濟生活、求道生活、世界

文化史上の日本化に分れ、最後に附録として釋迦一代記を掲げられてゐる。

増谷文雄

## 佛教と人生觀

昭和一四、四 洋四六

山喜房佛書林

佛教と人生とは離るゝが如く、又即するが如く、一種獨得の微妙なる關係にあるが、その究竟の目的は、佛教はやはり人生を對照としてゐるものである。正しい法を求め、正しい道を歩み、正しい人間生活を營んで立派な人生を建設する、それ以外には眞の佛教はない。故に佛教の教へる所に従つて人生を渡らんとする者は、よく人生を睨み付け乍ら、よく見事なる人生を建設して行かなければならない。と云ふのが、本書の大體の筋であつて、其の内容として、第一部には佛教の人生觀の理論的方面として、佛教の社會觀、歴史觀、宇宙觀、戰爭觀、死生觀、並びに現代宗教としての佛教に就て叙述され、第二部には、佛教の人生觀を人間生活に對して具體的の説明をされたもので、佛教生活の根本様式、諸相と佛教と苦行とに就て詳述されてゐる。

## 佛法と世法

高島米峰

昭和二三、一二 春潮社

一、五〇 洋四六

著者が「はしがき」に、佛法が世法から逃避しては山林的となり、獨善的となつて、活人生には無用の長物となる。世法が佛法から遊離しては鬭争的となり、我慾的となつて、眞人生には有害の魔手となる。佛教一元でもない、世法一元でもない。佛法世法を二元的に考へる處に動亂が生まれ、悲劇が生れる……靈肉一致だ、物心一如、凡聖一體から佛魔一紙と迄云ふのである。佛法即世法、世法即佛法など今更らしくもない。云々といはれてゐるが、本書は此の意味にて佛法と世法とを説いたもので、始めの佛法篇には、佛教大意を十三項に分ちて述べられた外、聖德皇太子の御事蹟、親鸞上人、聖德皇太子と親鸞上人外七章をかゝげられ、次に世法篇として十二章詳記されてゐる。

### 佛に遇ふ

松原致遠

昭和二三、一二  
丁字屋書店

〇・五〇

洋四六

本書は昭和十三年五月東京放送局から放送されたもの、筆記である。元來人間そのものは救はれざるもの故、救はれざるものとして全人間を照らし出す處の佛がなければならぬと云ふ前提の下に、佛教の教旨により人生の修養を平易に説かれたものであつて、聞法、内觀、隨喜、端身、不斷煩惱得涅槃の體現に分たれてゐる。

### 道を求めて

高楠順次郎

昭和一四、六  
大東出版社

一、八〇

洋四六

本書は大正十二年末刊行から昭和十三年に亘り、主として機關雜誌「アカツキ」に掲載された著者の卷頭論文を集録されたもので、論文の内容は、佛・法・僧の三篇から成り、一般に理解し易からしむるため、便宜上原理、體現、應用の三篇に分たれて、平易に佛教の教理を述べられたものである。

## 二類 文學・語學

### 支那事變歌集（戰地篇）

大日本歌人協會

昭和二三、一二  
改造社

二、八〇

洋 菊

二二二八・二七

本書は支那事變に關する歌集として、戰地篇、銃後篇の二編に分れ、主として戰地にある將兵の作品を收めたものであるが、更に應召者、現役入隊者、現地居住者、從軍赤十字看護婦、宣撫班、從軍記者、現地視察者並びに滿洲守備隊勤務、或は軍病院勤務等、今次支那事變に關して直接關係を有する各方面の作品をも蒐めてゐる。

### 一茶の精神分析

宮田戊子・大槻憲二

昭和二三、五  
岡倉書房

二、五〇

洋四六

二二三三・一七

俳人一茶は俳諧發達史上に於けるその位置からいつても、意外に重要であり、その性格からいつ



ても、中々興味の大なるものがある。俳句俳人に就いては、從來殆ど主觀的獨斷的觀念的なる批評鑑賞多く、科學的の立場から試みたものは殆どない。著者は此の點に留意し、特に精神分析方面からこの一茶を研究しようとして記されたもので、一茶の生涯、思想より見たる一茶、作品から觀た一茶として、是れに適切なる批評を加へられてゐる。

郷愁の詩人

萩原朔太郎

與謝野蕪村

昭和一二、六  
第一書房

一、二〇

洋四六

一二三四・七

從來世に現はれてゐる蕪村論は、すべて所謂俳人の書いたものであり、修辭や考證の解説上には専門的に入念されてゐるが、俳句そのものゝ本質、眞精神は意外に忘却されてゐるやうである。即ち皮相的な手法的技巧觀にて觀賞してゐる爲め、句が詩情してゐる本質、その背後にある主觀的眞く哲學とを、動もすれば閉却無視してゐる傾向があるとして、此の方面に留意し、蕪村の數多の句を擧げ、一々著者獨特の主觀的評釋を附され、新しき蕪村を紹介しようとしてされてゐるものである。

古今

正氣歌新釋

遠藤與資謹

昭和一二、九  
大同館書店

二、〇〇

洋四六

一二二・三・四

伸び行く日本、それは正氣伸長の時である。正氣こそ國民精神の眞髓であり、日本民族發達の實根である。この正氣を歌へる詩としては、支那に在りては精忠の譽れ高き宋の文天祥、日本に在りては藤田東湖、吉田松蔭、廣瀬武夫、國分青厓等があるが、就中藤田東湖の正氣歌の如きは、幕末維新の際國民歌謡として、名實共に其の役割を果したことは勿論、其の後も子々孫々に相傳へて傳誦愛吟せられて、國民の士氣を鼓舞してゐる。本書は是等古今に於ける正氣歌に就いて、其の作詩の由來を述べ、平明なる解釋を加へて、一般世人分けても青年諸子に理解せしめ、以て天下の士氣を振興せしむることに努められてゐる。

戰線

林美美子

昭和一二、一二  
朝日新聞社

一、〇〇

洋四六

二四四二・三三〇

本書は著者が支那事變從軍作家として陸軍部隊に屬し、漢口に入るまでの戦線視察を行つた通信二十三信を載せ、更に漢口通信、漢口より歸りての二篇をも收められてゐるが、何れも女流作家丈けあつて、その觀察の精緻なものがあり、その戦跡を目の當りに見るが如き感じがする。更に著者は本從軍によつて、本書以外に「北岸部隊」の一冊をも公にせられてゐる。

### 協坂部隊

中山 正男

昭和一四、一  
陸軍畫報社

一、〇〇〇

洋四六

二四四二・三三一

本書は昭和十二年十二月世界戦史にも類例少き壯快なる南京攻略戦に於て、南京城一番乗りの殊勳を樹てた協坂部隊に就て、其の奮戦状況を小説的に書かれたもので、蘇州河敵前渡河、岸中隊長の戦死、弔合戦、獨眼部隊長、無錫入城、南京進撃、見えたぞ南京城、南京一番乗其の他について書かれてゐる。

### 先驅移民

湯淺 克衛

昭和一四、二  
新潮社

一、五〇〇

洋四六

二四四二・三三三

本書は昭和十三年十二月號の「改造」に發表されたものを取纏めたものである。茫々漠々たる北滿の曠野に移し植ゑられた移民の先驅達が、不安と戦慄と郷愁と決意とさまざまに錯綜する心の録音に打たれ乍ら、雄々しくも百萬戸五百萬人移住の國策の下に、悲壯なそして決死的な活躍をされてゐる状況を書いたものであつて、實に作者が滿洲に足を延ばして詳細なる調査をなし、胸滾ぎる熱情を注がれた力作である。

### 移民以後

大江 賢次

昭和一四、一  
新潮社

一、五〇〇

洋四六

二四四二・三三八

本書は著者が昨年發表した作品中から好評を博した三篇を選んだものである。「移民以後」は昭和

十三年七月の「文學界」に發表、材をブラジル移民の實生活に取つた日本民族の苦惱を貫いて光明へと辿つた開拓史、「鮭と共に」は十月の「新潮」に發表され、カムチャツカの鮭の罐詰工場に働く人々を描いたもの、「決闘」は四月の「文藝」に掲載、京濱の熔鑄爐で捕はれた一労働者の出獄後の苦しみを通して、作者の心境を織りなした雄篇、著者は尋小だけの學歷ではあるが、つぶさに辛酸を嘗め作家とられた人で、數種の著作もある。

### 文學部 隊

尾崎 士郎

昭和一四、四 新 潮 社 一、四〇 洋四六 二四四二・三四八

本書は武漢攻略戦に従軍し、中支の戦線に一ヶ月餘を過した文學部隊二十二人中の一人たる著者の戦場視察記録であつて、第一線は勿論占領地並びに中支の風俗狀況等を詳しく記されてゐる。

### 海南島 記

火野 葦平

昭和 一四、五 改 造 社 〇、八〇 洋四六 二四四二・三六一

本書は著者が軍報導員として海南島攻略に参加し、二月十日上陸以來十九日まで十日間の狀況を備さに記録されたもので、海南島の資料は勿論、同島攻略後の狀況を詳かに知ることが出来る。

### 昭和の軍神

菊池 寛

### 西住戦車長傳

昭和 一四、九 東京日日、大阪毎日新聞社 二、〇〇 洋四六 二四四二・三八〇

本書は戦車隊小隊長として、上海上陸以來大小實に三十有餘の戦闘に従事し、我軍戦車界最高の歴戦記録を保持し、遂に徐州會戦に於て名譽の戦死を遂げられ、偉大な功績を樹てられた西住大尉の傳記である。著者は同大尉傳の執筆に當り、軍當局の好意によつて上海、南京、其他の戦跡を視察されたのみでなく、第一線に石井部隊を訪ね、大尉の舊部下と親しく膝を交へて資料を得、又西住家縁故の人々とも話を交はして、専ら其の真相を傳へることを主眼とされ、修飾、誇張を避け、小説的書き風を排して傳記的に執筆されたものである。

# 鐵血陸戰隊

中 滿 義 親

三二

昭和一四、四  
新潮社

一、一〇

洋四六

二四四三・一〇一

上海市街戦以來わが陸戦隊の勇奮苦闘は、中外の共に齊しく舌を卷いた所であり、その壯烈は鬼神をも哭かしむるものがある。本書は讀賣新聞紙上に連載された上海市街戦記をはじめ、廈門攻略記、長江作戦記、連陰港攻略記等について、六將兵の手に成つた硝煙記録であつて、或る時は鮮血隊が第一線に、或る時は蔭の任務たる第二線第三線の辛苦を體驗そのまゝに綴られた貴き戦場の思出であり、讀者をしてそゞろに血湧き肉躍るの感あらしむるものである。

## 聖戦下の式辭と挨拶集

青年雄辯奨勵會

昭和一四、七  
文英堂

〇、六〇

洋四六

二六一〇・六

本書は今次支那事變に於ける將兵の歡送迎、慰問、感謝、弔辭、戰捷祝賀の式辭挨拶等を主とし

て記されたものだが、併せて一般慶弔並びに選舉演説挨拶をも載せられ、尙ほ卷頭には、今次事變に對する内閣告諭「國民の進むべき道」、近衛前首相の「時局に處する國民の覺悟」を掲げられ、小冊子ではあるが一寸便利なものである。

## 國民の書

永田秀治郎

昭和一四、二  
人文書院

一、〇〇

洋四六

二六一二・九

本書は著者が最近各方面で行つた講演、又は演説挨拶、放送等を取まとめたもので、銃後の國民の覺悟や、教育關係、時局關係、青年、自治、其他二十餘項を收められ、中には海外の放送もあるが、何れも切々の懇情と深みを持ち、然かも平易で興味に富み、眞に國民必讀の書といひよう。

三類 藝術・演藝

花と藝術

金井紫雲

昭和九、八  
芸艸堂

三、〇〇

洋四六

三〇〇〇・八

本書は東洋を原産とした花で、是れまで藝術界に交渉の深かつたもの五十種を選び、その藝術的方面に關する事項を記述したものである。然し乍ら藝術といふ範圍は極めて廣い。文學と美術此の二方面だけの研究でも相當廣汎に亘るので、本書は美術方面特に東洋畫に眼目を置き、花鳥畫を見、花鳥畫を畫かんとする者の参考となり、又一面花が如何に畫かれ、如何に觀察され、如何に詠賦され、如何に味はれてゐるか等、花とその形態、史實、詩趣、畫趣、文學、繪畫との關係をより多く輯録されてゐる。本書の著者は元美術記者で、現に藝術資料及び藝術叢書方面の編纂に従事せられてゐる立場より、本書の如きは斯方面研究者に取りて参考となる所が尠くない。

藝林逍遙

高野辰之

昭和二三、一二  
東京堂

二、五〇

洋四六

三〇〇九・四

本書は著者が隨時新聞雜誌等に感想錄、隨筆類等を登載して來たが、その内から三十餘篇を蒐め「藝林逍遙」と題して公にされたものである。即ち前篇書畫趣味篇には、主として作者の略歴、作者の批判鑑賞、後篇には文學的方面の隨筆類を收められてゐるが、著者が江戸文學の大家丈けあつて其の所説は透徹し、記事は趣味的に富んでゐる。

### 四類 歴史・傳記・地理・紀行

## 維新の史蹟

大阪毎日新聞社京都支局

昭和一四、六  
星野書店

一、二〇

洋四六

四一八四・八

京都は千年帝都の地、一木一草歴史ならざるはない。殊に維新の偉業は此の地を舞臺として展開された丈に、當時を物語る史蹟は多數各所に遺存されてゐる。本書はこれ等遺蹟中維新當時皇居の地を中心として活躍し、偉功を樹てられ、或は異彩を放たれた勤王志士の輝かしい足跡並びに主なる遺蹟七十に就いて詳記されたもので、血湧き肉躍るの感がある。今や我國は有史以來の聖戦により、東亞の大業その緒に就かんとするの秋、本書によつて幾多勤王志士の燃ゆるが如き丹心、盡忠報國の至誠熱血を顧ふ時は、よりよき精神の糧たるべきを失はない。

## 神話傳説 支那五千年

松村 武雄

昭和二三、一一  
天松堂

二、〇〇

洋四六

四二〇八・三

本書は著者が有ゆる支那の典籍を涉獵して、その内から目ぼしい神話傳説を集録したものである。收むる所二十九種百數十篇、何れも著しい持味があり、そして怪談的要素の豊富と濃厚さは、他民族のそれ等に比して一頭地を抜いてゐる。物語の構成が多くの場合、時代と人物とを明かにして居り、従つて神話までが強く史實的な形態を具へて居るし、又文藝方面から鑑賞して見ても、興趣の頗る大なるものがある。

## 新東亞建設と史觀

稻葉 岩吉

昭和一四、一  
千倉書房

一、六〇

洋四六

四二〇九・三

今次の聖戦は思想戦を以て終始すべきものであり、所謂東亞の新建設は、東洋舊道德の複元的維

新を必要とすると言ふ信念と希望とにより、本書を公にされたものである。即ち事變後の支那には帝政樹立を絶対必要とするといふ見解の下に、帝政施行清朝復辟の提唱を開卷第一に力説され、次に三民主義は共産主義の一大温床で、思想戦を以て今次事變の全貌なりとする以上、此の温床を覆へして拔本塞源の舉に出でなければならぬことを痛論され、更に外族の支那統治に關して、歴史的立場より極めて詳細に叙述された外、史論として元寇の新解釋外一項を載せられてゐる。

### 神に祀られたる日本女性

矢澤 高佳

昭和一三、一二  
モナリス

一、〇〇

洋四六

四四二一・一〇

本書は讀賣新聞婦人欄に一日讀切りとして、十三回連載されたものに追補加筆して編されたものである。書中載する所は、明治維新に於ける勤王志士妻女の殉難者、明治以降各戦役に於ける看護婦の殉難者、通州事件に於て護國の花と散つた各婦人等數十名に對する盡忠報國の事績を叙述したものが、就中筑波山事件勤王志士妻女の殉難の如きに至りては、悽愴極まりなく、その勤王報國の至誠赤心は鬼神をも泣かしむるものがある。

### 戦車の華軍神西住大尉

赤木 春之

昭和一四、一二  
天松堂書店

一、〇〇

洋四六

四四三〇・一六四

飛行機と戦車、それは近代科學戰に缺くべからざる兵器である。此の機械化部隊の活躍なくしては、到底戦捷を望むことが出来ない。然し如何に優秀な性能を持つものでも、之を動かす魂なくしては、其の性能も價値も發揮しない。ソ聯が長鼓峰に二百臺の戦車を集中したが、その使ひ方、時機、精神力の缺如から、わが歩兵の爲に惨敗全滅の憂目を見たことによつても分る。本書はよく此の魂を有して、鐵牛の軍神とまで仰がれた西住小太郎大尉が、昭和十二年九月吳淞に上陸し、寶山城の初陣より、大場鎮突破、南京攻略、次いで徐州大會戰に参加し、宿縣附近にて遂に名譽の戦死を遂げられたまで、中北支戦線に於ける三十四回の苦闘を續け行く處、直に頑敵を撃破し、千古不朽の偉勳を樹てられた事績を叙されたものである。

### 大原 幽 學

高倉 テル

昭和一四、一  
東邦書院

一、〇〇

洋四六

四四三〇・一六六

本書は本縣郷土の誇りとする大原幽學の事蹟に就いて、通俗的に紹介された書物である。大原幽學に關する文献としては、曩には田尻稻次郎氏著「大原幽學全書」、千葉縣内務部編「大原幽學」、最近には飯田傳一氏、長戸路政司氏、奥山市松氏其の他の人々によつて種々紹介されてゐるが、本書の特徴とも見るべきものは、世界に於ける産業組合の創始者は大原幽學であるとされてゐる點である。即ち一八四〇年（天保十一年）に長部村に「先祖組合」を作つたことは、世界の創始と稱する一九四七年ドイツのライフアイゼンの「パン組合」、一九四九年フランスの「貧農救済組合」、一九五四年ヘツデスドルフの「慈善組合」、一八七六年ヘツデスドルフの「農業中央貸付金庫」、一八四四年イギリスの「消費組合」などよりも早く、實に世界に於ける産業組合の創始者であると云ふ點に就いて詳記されてゐる。尙ほ本書の假名遣は、文部省臨時國語調査會で決定した發音式假名遣を用ひたことは他に類を見ない。

## 日本風景誌

脇水 鐵 五郎

昭和一四、三  
河出書房

二、五〇

洋四六

四六〇九・一

日本が世界一の風景國であることは、今や世界の定論となつてゐると云つてもよい。然し定論化されたのは比較的近年のことで、一般の認識頃に新なるものがあるが、此の傾向はますます助長しなければならぬ。それには日本風景の眞價を明にすることが第一で、科學的に風景を解剖して、風景の由來する所を糾さなければ風景の正しい認識は起らない。本書は著者がこの趣旨で、折にふれ、時に應じて、諸學會のために執筆した原稿を輯録されたもので、始めに日本風景と日本精神を掲げ、次に全國に於ける著名景勝地二十數ヶ所について記されてゐる。

## 南方文化の建設へ

幣原 坦

昭和一三・一  
富山房

二、八〇

洋四六

四六八〇・四

臺灣が我が領土となつたのは、明治三十八年からであるけれども、我が本土との關係殊に其の經濟的の連鎖は、一朝一夕のものではない。更に領臺後は一視同仁の聖旨を奉體して、開發に非常なる努力を注がれた結果、匪害蕃害はその跡を絶ち、慶幸福祉の業績は上り、舊態は一變して樂土となつた。此の思出多き臺灣に舊來の不完全なる文化を整調し、更に進歩的にして又総合的なる新南



方文化を建設することは、聖澤を光被せしむる上に極めて有意義な事業である。本書は此の臺灣の文化建設に就いて、その歴史並びに現況に關し之を十八章に分ち詳記されてゐるので、臺灣研究者にありては必讀すべき書物であらう。

婦人の大陸潜行記

エラ・マイアール著 多賀善彦譯

昭和一三、一  
創元社

二、〇〇

洋四六

四七〇〇・一

本書はスイスのジュネーブ生れ、三十前後の婦人記者である著者が、支那奥地青海、新疆兩省を探險せんと、昭和十年一月北京を出發慘憺たる難業苦業をなし、二百數十日間塞外の荒野、沙漠、高山等に起臥して、五千哩の大探險をなし、印度カシミールに至つた大旅行記である。今まで謎とされてゐた兩省の民情、風俗、習慣さては政情等、悉く著者の精緻なる觀察と高雅ユーモア的に満ちた才筆とによつて、細々と描き出され、登場人物の些細な身振までも残らず擱へられた書き振りである。此の書一たび出版せらるゝや、歐洲の讀書界を風靡し、報告文學の作家として一時に名譽を博したのである。

中央亞細亞探檢記

スウェン・ヘディン著 岩村忍譯

昭和一三、一  
富山房

〇、六〇

洋小

四七〇〇・二

無雜作に壁に掛けられた世界地圖、それには幾多無數の探檢家の血と汗が潜んでゐる。つい此の間まで亞細亞の奥地には人間の近づき得なかつた沙漠、密林、山嶽があつた。これらを踏査して世界に紹介されたのは、北歐の生んだ偉大な探檢家スウェン・ヘディンである。彼は一八六五年瑞典に生れ、歐羅巴の大學を卒へた後の彼れの四十餘年間の探檢業績は一通りでないが、就中中央亞細亞の探檢はその最高峰であらう。本書は中央亞細亞紀行中の最大傑作とも稱せらるゝヘディンの亞細亞横斷の中から、タクラ、マカン沙漠横斷とロブ・ノール紀行との二篇を選出して譯されたもので日記體に記されてゐるが、前人未踏の沙漠地奥地は如何なるものか、如何に探檢が困難であつたかなどと云ふことを如實に物語つたものである。

北京より莫斯科へ

スウェン・ヘディン著 高山洋吉譯

昭和一四、二  
生活社

三、二〇

洋四六

四七〇〇・三

本書は著者が一九二三年（今より十七年前）北京より蒙古、シベリヤを経てロシアに探検旅行をされた時の記録であつて、同地方の地理、人情、風俗は勿論、其の他前人未聞の発見も多く、ユーモア的に富み面白く記されてゐる。スウエン・ヘディン博士は地質學、土俗學の權威、スウエーデン學士院自然科學部長・ノーベル平和賞・鑑定者としてよりも、寧ろその探検と活動によつて世界的に名聲を博してゐる。博士の足跡は殆ど全世界に及んでゐるが、探検の舞臺を就中東洋に集中し七十餘歳の高齢を以てして今日尙ほアジア探検の事實を繼續してゐることである。

## 大陸支那の現實

藤田元春

昭和一四、二  
富山山房

二、五〇

洋四六

四七一〇・七

今次支那事變に依りて、北中南各方面は皇軍の掌握に歸し、更生支那の脉動高鳴り、東亞永遠の平和と明朗新支那建設に直面し、之に對するわが國の關心亦尠からざるものがある。此の秋に當り斯界の權威たる著者が、我が國民に大陸支那の現實を知らしむる爲、本書を公にされたのである。本書はこれを二部に分ち、第一編を通説とし、主として支那の版圖、地形構造、住民風俗、動植礦

物、産業、交通を述べて、自然地理とその歴史、人文發達との關係を明にし、第二編地方誌に於ては、出來得る限りその地域性を詳にして、或は黄河の氾濫と其の對策、或は揚子江流域の經濟と其の人文、若くは南支に於ける通商と日本民族との關係等に及び、所謂一般地理書とは其の趣を異にして、各地域に於ける自然と人文地理の要點を失はざることに努められてゐる。

## 支那全土

片山繁雄

昭和一四、七  
三省堂

三、〇〇

洋四六

四七一〇・〇

支那事變勃發以來一般の支那に對する關心は愈々深く、支那を知らんとする者の多くなつて來たことは事實である。本書はこれ等の要求に應ずべく編されたもので、支那の山川風土都邑等地理に關する事項、並びに歴史上の事件や、産業、交通、外國關係等に關してその要項を述べ、通俗平易に支那全土に就ての事項を記したもので、其の内容は總説、第一編北支、第二編中支、第三編南支、第四編産業に分れ、學生々徒は勿論、一般知識階級や青年層等には適切な書物である。

繪と文  
中支風土記

高井 貞二

昭和一四、七  
大東出版社

一、五〇

洋四六

四七一八・七

繪と文  
北支風土記

向井 潤吉

昭和一四、七  
大東出版社

一、五〇

洋四六

四七一八・八

本書は従軍美術家たる著者が、北支並びに中支に従軍して、前線に於ける皇軍の活躍状況をスケッチし、砲彈を潜りて新しき風物を探り、民俗に接して繪と文とによつて北支・中支の状況を紹介されたもので、一寸他の従軍記とはその趣を異にしてゐる。

南支那

大阪毎日新聞社

昭和一四、二  
同社

一、三〇

洋四六

四七二〇・二

今次聖戦の脚光を浴びて新に登場し來つたものに南支那がある。南支那は我國に在りては、從來鮮滿支をつなぐ北方ルートに比して、國民の關心甚だ多からざるものがあつたが、今次聖戦の結果は、我が南進ルートの一大據點として、我れに對する意義一段と深くなり、我國民に斯方面の知識の必要が一層加はつて來た。本書は南支那に關し、學界諸權威により綜合的研究を取纏められたもので、何れも地理的歴史的事項や、我國との關係等について詳記され、南支一班の事項を知るには適當である。

五類 政治・法律・經濟・軍事

昭和國民讀本

徳富猪一郎

昭和一四、二 東京日日、大阪毎日新聞社 一、〇〇 洋 菊 五一〇九・三八

本書は著者が時局の重大性と皇國の前途に就て深き關心を寄せられ、戰場に馳驅する心を以て君國に報いんと編された快著である。載する所五十章、項目は種々に分たれてゐるが、其の内容は我が國の榮えある史實のその内、吾等の祖先々輩か日本精神、皇室中心主義で一貫し、尙ほ今後我が國の使命は、世界の指導者、皇道の世界化であるとして、我が國民の一層の自覺發奮を強調され特に男女青年層の教養訓練を重要視されてゐるが、何れも言々句々感激たらざるはなく、而して一面知らず識らずの間に、わが光輝ある歴史に深き感動を受け、自重自奮を促さるゝ點が尠くない。一般國民は勿論、青年男女には是非一讀を奨めたい。

われらの建設

アドルフ・ヒトラー著  
安居憲太郎譯

昭和一四、三 青年書房 一、三〇 洋四六 五一八〇・一四

本書は一九三八年二月十一日ヒトラー總統が、ベルリンに於て全獨逸國民社會主義黨員になされた大演説の全譯で、ナチス政權獲得以來最も多事多難なりし三八年度に於けるヒトラー總統の心構へが察知出来る。三八年は實にヒトラー總統が第三帝國建設以來、獨逸の榮光を最も強烈に中外に宣明した年である。その内容は「國民社會主義革命」、「われらの建設」以下十一項に分れ、中に極東に於ける日本の勝利、日獨伊防共協定等も含まれてゐる。附録第一「總統を援ける人々」は、フリツプ・ボウレア氏著、附録第二「建設への道」は、ハンス、ヘインツ、ザーデイラ、マンタウ氏著によられたが、譯者に於てこれに幾分の加筆や註釋をされてゐる。

ソ 聯 報 告

布施 勝治

昭和一四、一 東京日日、大阪毎日新聞社 一、三〇 洋四六 五一九〇・五四

支那事變以來對ソ問題は、益々重大化して來た。然かもソ聯に對する一般の觀測には、種々の誤謬がある。相手を知ることが戰勝の最大秘訣であるとすれば、ソ聯の研究は刻下の緊急事であると云はなければならぬ。本書は大毎東日歐洲特派員として、多年彼の地に在りて東奔西走通信の激務に従事せられつゝある著者が、該博な知識と犀利な觀察と、椽大な筆を以て、ソ聯の實情を餘す處なく把羅剔抉し、以て我國民に對ソ認識を一層深からしめんと努められたもので、スタリンの心境變化外四十九項を收められてゐる。

## 日の出の子達

ウイラード・プライス著  
澤田謙譯

昭和一四、四  
青年書房

二、二〇

洋四六

五一九〇・五六

著者は世界の運命の鍵を握る日本を見るべく、日本に來つて滞在すること四ヶ年間、日本内地は勿論、朝鮮、支那、滿洲、蒙古はいふ迄もなく、南洋から濠洲まで經めぐり、眞の日本の姿は日本丈け見たのでは分らぬ、日本の實力は太平洋と大陸とに力強く具現してゐるといひ、それを確實につかんで一巻の書としたのが本書で、第一篇内地の日本、第二篇滿洲の日本、第三篇朝鮮の日本、

第四篇支那の日本、第五篇太平洋の日本、第六篇世界の日本に分れてゐる。著者はアメリカ人であつて多少の偏見は免れないが、まづ外人としては日本を正視し、然かも日本人の未だ見得ざりし多くの事實を發見し、又随分細かな點までも觀察され、面白く書かれてゐる。

## 日本は正し

高石眞五郎

昭和一一、四  
東京日々、大阪毎日新聞社

〇、二五

洋四六

五二五〇・五一

本書は著者高石氏が昭和十三年十二月廿二日附を以て、米國スクリツプス・ハワード系新聞取締役會々長ロイ・ハワード氏宛に送られた長文の書翰であつて、曩に大毎東日紙上に發表されたものである。ハワード氏は米國新聞界の大立物であり、米國の輿論を作る上に大なる影響力を持たるゝものであるが、同氏は支那事變の進展につれて漸次に懷疑心を抱き、昨昭和十三年十一月長文の書翰を著者に寄せ、日本の對支政策並びに對獨伊提携の根本的動機に關して、腹藏なき意見を求められた。本書はこれに對する著者の回答全文を記したもので、英文邦文兩様に書かれてゐる。

## 米國は戦ふか

河上 清

五二

昭和一四、五 東京日々、大阪毎日新聞社 〇、四六 洋四六 五二六〇・八

本書は東京日々、大阪毎日新聞紙上に、二月廿七日より七回に亘つて連載されたもので、原文は著者の英語口述記録を翻譯されたものである。書中、中立ならぬ中立法、日本と戦ふ積りか、何故に武装するや、英國の對米外交、お門違ひの日貨排斥などを掲げられてゐるが、要は世界の平和、戦争の大問題は第一に米國を考慮すべきことである。支那事變は彼れに取つては對岸の火災に過ぎないが、歐洲戦争は正に隣家の大火災である。日本がドイツに加擔して英國に對する場合、米國は英國側に參戰すべきことは火を賭るよりも燎かであるといふ内容である。

## 勸業債券利殖法

園 史 郎

昭和二三、一二 實業之日本社 一、七〇 洋四六 五六六〇・八

本書は致富の一方法として勸業債券を選ぶ人々の爲めに、技術的並びに精神的の指導として債券

による金儲け即ち債券利殖法について書かれたもので、債券のアウトライン、基礎知識、種類、利廻り、賣買、同機關相場、利殖法等に分たれてゐる。

英國の極東作戦

## 新嘉坡根據地

池崎 忠 孝

昭和一四、七 第一出版社 一、六〇 洋四六 五七二〇・三〇

今次支那事變に際し、英國は事毎に反日的鋒鋦を示し、飽くまで支那の抗日勢力を援助し、更に第三國に語らひて露骨な援蔣政策を取り、極東作戦に専念しつゝあることは、我國として重視すべき事實である。本書はこの險惡性に鑑み、一般國民に深く英國の極東軍備を知らしむる目的を以て新嘉坡根據地の狀況に就て詳記されたものであり、著者の前著「太平洋戰略論」の姉妹篇として讀むべきものである。即ち同書にありては、米國海軍の進攻作戦を述べられてゐるが、本書に在りては主として英國海軍を中心とする極東作戦について述べられてゐる。

五三

### 軍隊入門の知識

軍事普及會

昭和一四、五  
龍文舎

〇、六〇

洋四六

五八〇〇・一

本書は軍人たんとする者に對して、その道程を指示し、知情意の圓滿なる發達を促し、知行一致の人格を涵養せんとする目的を以て編されたもので、勅語謹解、軍隊入門の知識、入隊後の豫備知識、術科豫習摘要、陸軍各學校案内等に分れ、小冊子ではあるが、入營者の準備書として適切なものである。

### 少年航空兵の手記

野口 昂

昭和一四、二  
中央公論社

一、五〇

洋四六

五八五六・一

本書は漢口大攻撃戰に際して、親しく陸空軍第一線部隊に従軍した所澤陸軍航空學校依託一等飛行機操縦士たる編者が、少年航空兵の手記を取纏めたものである。本書に収録せる十四人の少年航

空兵中には、本縣笹川町の出身者もある。これ等の手記は事變勃發以來北支から中支に及び、歴史的な武漢三鎮の陥落に至る熱血の奮戰記である計りでなく、他の荒鷲戰士の活躍を併せ物語るもので、尙ほ書中には銃後を護る母に對して、切々愛情に溢るゝ一年有餘の涙ぐましく通信採録や、戦線に愛兒を送つた銃後の母の美はしき凜然たる心意氣などもあり、一般人は勿論世の多くの母性に一讀を奨めたい書物である。

六類 社會・風俗・家庭・娛樂・運動

女性の勝利

村上瑚磨雄

昭和一三、一二  
富山 房

一、三〇

洋四六

六五四〇・一五

本書は女性をその本性に於て目覺まし、その獨特の理想に生きさせようとするのが目的で編されたもので、よくぞ女に生れた、女ならでは出來得ぬと云ふ據點に向つて目覺める時は、始めて女性の勝利を収める領域が出來ると云ふ趣旨であつて、婦人の理想の獨立、家庭の仕事、婦人と職業の三項について詳述されてゐる。

洋服裁縫 (主婦之友花嫁講座)

主婦之友社

昭和一四、七  
同社

一、二〇

洋四六

六七〇四・二

本書は花嫁となり、又は一家の主婦となつて、其の家族に必要な感ずる洋装に關する常識並びに洋裁に必要な基礎知識、婦人子供其の他一切の洋服に就ての積り方、裁ち方、縫ひ方等につき詳細な装圖を入れて其の作り方を示し、又洋服類の修繕、繰り廻し、洗濯、手入、蟲干、保存法等に就ても懇切に記述されてゐる。

女性美増進の生活

高木逸雄

昭和一四、一  
實業之日本社

一、七〇

洋四六

六七四〇・二

美の觀念は時代と民族、個人とによつてそれ／＼相違する。女性美に就ても亦同じであるが、要するに現時の女性美はその形體を主とする以外に、更に完全なる發達を遂げた健康なる體軀を稱して女性美としてゐる。殊に體育スポーツの盛んとなつたことに伴つて、一層此の觀念は強くなつて來た。即ち今日では全身の體形を完成せる健康美を以て、最高の條件としてゐる。本書は此の女性美に關して、「男性と女性の體差」以下十六項に亘り、男女の比較より女性美發達に要する消極積極各方面に就いての事項を詳述されてゐる。



農村栄養

### 共同炊事の手引

森川規矩・増田正直

昭和一四、九  
佐藤新興生活館

一、〇〇

洋四六

六七六〇・一五

國民の體位向上は栄養に俟つ所頗る大なるものがあり、近時此の運動の盛んに行はれて來たことは喜ばしい。共同炊事は此の栄養の合理化、栄養の統制事業である。即ち國民の保健と經濟上から栄養改善を母體とした事業である。都市工業地帯には斯の種の事業漸く多きを見るに至つたが、地方的には未だ甚だ乏しい。最近農村に在りては縣の指導の下に、農繁期を機として此の事業を試みるものポツ／＼現はれるに至つたのである。本書は本縣にありて斯事業に多年の經驗を有する著者が、その經驗を基調として上梓されたもので、前編には基礎知識として主食物、副食物、間食の栄養改善を記され、後編には共同炊事の實際を各方面から述べられ、最後に各種献立を掲げられてあるので、共同炊事をなさんとする者は勿論、一般家庭人にも裨益する處が尠くない。

おもしろ

### 漬物のつけかた

川崎甫

昭和一四、四  
泰文館

一、〇〇

洋四六

六七六五・四

本書は手近の材料たる蔬菜、果物五十數種を選び、其の漬け方につき、煩瑣な理論や、複雑な器械を要する事柄を省き、何れの家庭に於ても容易に應用出来るものについて、平易簡明に記されたもので、始めに漬物と人生、漬物の食品の價值、漬物の分類、漬物の準備其の他に關して記され、次に各種の漬け方を詳記されてゐる。

### 弓道上達法

弓道教育研究會

昭和一一、五  
西東社出版部

〇、五〇

洋四六

六九六四・二

本書は學校に於ける弓道實習の手引たることを専らとし、現在行はるゝ多種多様な流派中、其の何れにも偏せず、發育期に相當する學生の武道として、最も適正と認むる所を理論的に連鎖し、

配するに古傳を引きて参考となし、以て弓道實習者の好伴侶たることを期されたもので、總論、射體、習射、古傳射法、射形の矯正、大日本武徳會弓道要則、弓具等に分れてゐる。

## 七類 理學・數學・醫學

日曜日の科學者 自然觀察の手引 三省堂編輯所

昭和一四、一〇  
三省堂

一、三〇 洋四六

自然科學教育の根本は、青少年をして自ら自然を科學的に觀察するの態度を修得鍊磨せしむるに在ることと言ふまでもないが、現時の教育に於ては此の點稍缺陷ある如くである。本書は此の缺點を補はんがために、殊更に材料を教室を離れた校庭なり、我家の周圍なり、或は山野や、水邊や、海岸なりに求め、之を通して青少年に自然科學觀察の手ほどきをすることを企圖されたものである。而して本書は學生生徒を目標として編されたものであるが、更に一般成人、青年層の科學愛好者に對しても、そのよき伴侶たり指導者たることが出来るやうに記されたもので、我家での觀察九種、水邊の觀察十種、野山の觀察十一種、海邊の觀察八種がある。

### 八類 工學・交通・通信

#### 小住宅附帯設備管見

財團同 潤 會

昭和 一四、一 會

二、〇〇

洋四六倍

八二三九・二

本書は財團法人同潤會に於て、昭和九年七月より同年十二月までの半ケ年に亘り、主として東京市及び其の附近に在る小住宅五十戸に就て、其の建築附帯設備中數種類の事項に關して實狀を調査したもので、調査住宅の概要、井水、給水、浴槽と湯罐、採暖設備、改良汲取便所に分れ、これに一々調査員たる池田讓次氏の意見が記述され、更に詳細な一覽表、多數の挿圖もあり、市街地小住宅建築者には参考となる所が尠くない。

#### 實用 郵便 必携

東京能率研究所

昭和 一四、五 同 文 館

一、三〇

洋 小

八九二〇・二

大小事業の取引には電信、電話、書狀、振替などがあり、國民生活のゆとりと保證の爲めには、貯金、簡易保險、郵便年金、爲替などが設けられてゐる。これらの通信實務知識は、該事務家に在つては勿論、一般人に取つても是非心得置かねばならぬことである。本書は郵便事務に掌はる人々並びに會社、商店其の他一般家庭人に對して、ポケットブックとして常に役立たせようと編されたもので、郵便に關する全部・簡易保險・郵便年金・郵便貯金・振替貯金・電報・電話・郵便規則等を詳細に載せられてゐる。

### 九類 産業

#### 中支産業要覽

東亞問題研究會

昭和一四、一  
三省 堂

一、二〇

洋 小

九〇九〇・一

中支は支那産業の中心地であり、列強權益の最も錯雜してゐる處で、皇軍の最も困難なる戦をなし、又現に力を集注してゐるのも此の中支で、今後外交々渉は勿論、資源の開發、工業の再編成等中支の重要性は有ゆる方面から認識しなければならぬ。本書はこの中支に於ける産業の状況を一般に知らしめるために編されたもので、第一章概説には、中支の範圍、自然的條件、面積、人口、主要資源を記述され、第二章經濟概観には、農工業、財政、金融、貿易、交通、列國の權益を記され、第三章には、各省産業の概観を載せられてゐる。

#### 滿洲國産業要覽

東亞問題研究會

昭和一四、一  
三省 堂

一、〇二

洋 小

九〇九〇・二

友邦滿洲國は次第に延びて行く、わが國との關係は益々緊密を加へ、移住者の數も頗る増加して來たことは喜ばしい現象である。本書は移民しようとする人々の手引として、或は滿洲國に旅行する人々の旅行案内として、滿洲國の産業状況を紹介されたもので、第一章自然的條件には、地形、氣候、土壤、面積、人口、主要資源、第二章一般經濟事情には、滿洲經濟の發展段階と對滿投資、財政、金融、貿易、交通、通信、第三章には、工業、鑛業、農業其他産業の概観を記されてゐる。

#### 石川翁農道要典

同 編纂會

昭和一四、三  
同 會

一、八〇

洋 四六

九一〇〇・二二

本書は明治の二宮翁と稱せらるゝ石川理紀之助翁の興村救荒の事蹟と訓話、紀行等を適宜採録按

排したものである。翁の著述は悉くその實行の記述であつて、農事、農政、經濟はいふ迄もなく、更に修身道德及び歌文等に關するものも頗る多いが、上梓されずじつに焼失したのも亦尠くないと云はれてゐる。本書に摘録せるものは、概して刊行書中より出されたものであつて、卷頭に翁の略傳次に第一部常道篇、第二部勸農篇、第三部興村篇、第四部適産篇、第五部救荒篇、第六部文藻篇、最後に翁の年譜を掲げられてゐるが、何れも言々句々悉く翁の至誠と體驗から迸出したもので、農家農村は勿論、世道人心を裨益する所頗る大なるものがある。

### 興亞農民讀本

山崎 延吉

昭和一四、五  
富民協會

〇、八〇

洋 菊

九一五・三五

本書は斯界の權威たる著者が、今次聖戰に際して農村が戦線に強兵を出し、軍需産業に優工を提供し、或は食糧の確保に、或は輸出農産物の増産に、或は貯金の勵行に、一生面を開き國力の強化に資しつゝある現状よりして、農村の重要性と農民の價値存在は、之を忽にすべからざる問題であるといふ根據から、農民の自覺を促して興亞の天業を翼賛し奉り、農民の分擔を明確にし、その自

覺を促進すべく全五十章に亘つて詳述されたもので、興亞讀本と稱するも、一面愛國讀本であり、済民讀本とあるといひ得るものである。

### 持てる國日本

大河内 正敏

昭和一四、一  
科學主義工業社

一、〇〇

洋 四六

九七〇九・二

持たざる國といはるゝ日本を持てる國とするものは、日本の科學の振興である。日本は朝鮮滿洲はいふ迄もなく、内地にも亦開發すべき資源は決して尠くない。而かも資源に代るべきものは科學である以上、科學を振興すれば持たざる國も亦持てる國となると云ふ意味で書かれたもので、始めに國防資源論として、我國と資源との關係を各方面より叙述し、更に生産擴充と熟練工の養成、生産力擴充と自給自足、多能熟練機械工と技術者の養成、熟練工の養成等について詳述されてゐる。

### 紙 (資源愛護讀本)

關根 康喜

昭和一四、六  
成史書院

一、八〇

洋 四六

九七五四・九

本書は「廢品回収及び更生品」、「屑の話」其の他の編述をなし、我國廢品回収運動に就いての一大指導者たる編者が、紙の需用者の立場に立つ者に對して紙の知識を中心として書かれたものだが、然し紙に關する専門的知識の普及化と云ふのではなく、紙の持つ社會的地位の反省への一資料となし、紙を通して資源愛護の思想を普及せしめんとせられたものである。書中載する所は、紙とは何か、紙の作り方、最近に於ける製紙技術、パルプと紙の問題、葦の紙と其の由來、紙の始末をめぐつて、消費と回収と更生、時局紙談義等である。紙の不足が叫ばれてゐる今日、一讀すべき價値があらう。

## 味 噌 百 珍

大日本料理研究會

昭和一三、一一  
料理の友社出版部

〇、八五

洋四六

九七五八・一〇

日本食の味、食味の王者といへば、米の飯に味噌汁、漬物の三であり、是れは吾々日本人の體質と精神とを樂き上げて居り、又一日もなくてはならぬ食料となつてゐる。味噌汁の營養價値に富むことは今更いふ迄もないが、之が料理によつては、更に一層の珍味と滋養とを加へることゝなる。

本書は此の味噌汁について其の種類、汁仕立の色々、並びに惣菜味噌汁十一種、變つた味噌汁十六種、野菜の榮養汁十二種、鳥の味噌汁七種、味噌仕立の雜煮七種、珍味の味噌汁二十二種、郷土色味噌汁二十五種、地方の味噌色々、わが家の味噌汁に就いて記され、「附」として變り御飯と、雜炊百種、刺身のつま百種を挙げられてゐる。

昭和十四年十二月十八日印刷  
昭和十四年十二月二十日發行

(非賣品)

成田圖書館

千葉縣印旛郡成田町

成田學園印刷部印刷

千葉縣印旛郡成田町

終

